

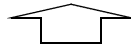
1 新宿区立牛込第三中学校 教育目標

社会の変化に、自己を見失わず、自ら考え、主体的に判断して行動できる人の育成と、豊かな未来社会の創造を目指す。

- ① よく見、よく聞き、自分の考えをもつ。
- ② 物事をやり抜く強い意志をもつ。
- ③ 責任を果たし、みんなのために働く。
- ④ 美しいものを求め、豊かな心をもつ。

2 グランドデザイン

「笑顔あふれる牛込第三中学校」を創る
－ 生徒主体の柔軟な教育活動の展開 「我慢の時」を『輝く未来』に －



生徒	○「知・徳・体」のバランスのとれた成長	→	自尊感情・自己肯定感
	○目標の達成（理想の実現に向けた努力）	→	主体的な自己実現・達成感
	○充実した学校生活	→	自己有用感・社会性の向上
教職員	○生徒の成長・目標の達成	→	高い職業観に基づく達成感・責任を果たす充実感
保護者	○生徒の成長・目標の達成	→	相互理解・協働・厚い信頼感
地域	○支援による生徒の成長・地域への貢献	→	協働の喜び・充実感

3 学校経営計画と教育課題研究校（令和元年度～2年度）の取組

（1）新宿区教育課題研究校

新宿区研究課題	「効果的なカリキュラム・マネジメントの実践について」
本校の研究主題	「自ら学び、互いに高め合う生徒の育成」～カリキュラム・マネジメントを通して～
本校の研究仮説	学び合い活動（協働学習）を働きかけ、 自己有用感を高めることで、主体性や向上心が伸長する。

（2）学校経営計画との関連

教育課題研究校としての取組及びそのねらいは、今年度の学校経営計画と目指すところは一致しており、常に意識して教育活動を進めていく。

①研究の基本的な考え方

新宿区教育課題の研究を進めるにあたり、次のことを学校の視点として重視する。

「生徒の力を伸ばすための研究」を進め、牛込第三中学校の新たな一歩を踏み出す

②研究校としての目指す生徒像

上記の研究主題を決める過程で全教員で自校分析を行った。そこでは「生徒の課題」が明確になり、「伸ばし育みたい生徒の資質」として、「主体性・積極性・向上心」「他者と協力して新たな課題に立ち向かう力」が挙げられた。このことは、次項の「目指す生徒像」と合致する。

4 めざす生徒像・教職員像・学校像

(1) 生徒像

多様で変化の激しいこれからの社会を生きるために必要な「豊かな心＝徳」「確かな学力＝知」「健やかな体＝体」をバランスよく有する生徒を育成する。

【具体的な生徒像】

「豊かな心＝徳」

- 自他の生命と人権を尊重できる生徒
- 基本的生活習慣を身に付けた生徒(あいさつ、言葉遣い、身だしなみ)
- 善悪の判断ができ、規範意識が高い生徒
- 他者への思いやりと感謝の気持ちをもてる生徒
- 地域への愛着と参画意識をもつ生徒

「確かな学力＝知」

- 基礎的・基本的な知識・技能を習得している生徒
- 思考力・判断力・表現力等を身に付け、その力を使え表現できる生徒
- 自分に自信をもち、目標の達成に向け努力できる生徒
- 主体的に学習に取り組む生徒

「健やかな体＝体」

- すべての活動の基盤として、たくましく生きるための体力がある生徒

(2) 教職員像

①主体的かつ適切な判断ができ、組織として迅速に動くことができる教職員

②危機管理を常に意識できる教職員

【牛込第三中学校・危機管理】

- さ … 最悪を考えて
- し … 慎重に
- す … すばやく
- せ … 誠実に
- そ … 組織的に

③教員としての基礎基本を身に付け、その向上に努める教員

【教員に求められる基本的な4つの力】

- 1 学習指導力
- 2 生活指導力・進路指導力
- 3 外部との連携・折衝力
- 4 学校運営力・組織貢献力

④学校の教育力向上を図るための「カリキュラム・マネジメント」を理解し、実践できる教職員

【カリキュラム・マネジメントの3つの側面】

- 1 教科横断的な視点で教育の内容を組織的に配列する。
- 2 教育内容の質の向上に向けPDCAサイクルを確立する。
- 3 教育内容と人的・物質的資源等を効果的に組み合わせる。

【具体的な教職員像】

- 生徒一人一人を大切にし、生徒の成長に喜びを感じる教職員
- 教育への高い意欲をもち、常に指導力向上に努める教職員
- 様々な人間関係を大切にし、お互いに高め合える（OJT）教職員
- 危機管理意識の高い教職員
- 組織の一員として、全体を考え、先を見通した行動ができる教職員
- 服務に厳正な教職員

(3) 学校像

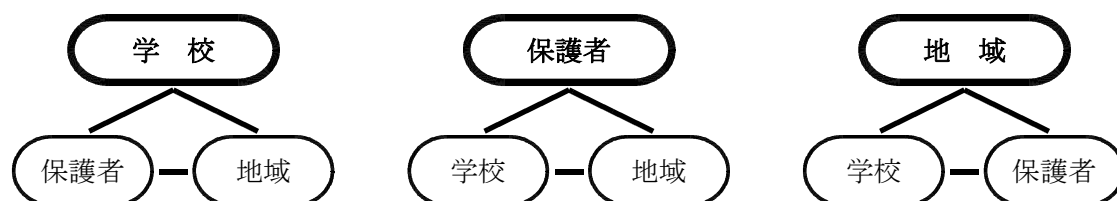
生徒・保護者・地域から信頼される学校をつくる。

【具体的な学校像】

- 安全・安心・清潔で、生徒が楽しく登校できる学校
- 規律ある学校（自主自立－ノーチャイムデー）
- 日々の地道な教育活動の積み重ねを重視できる学校
- 心を一つにして組織力を生かせる学校
- 保護者や地域と協働できる学校

【めざす保護者・地域との関係＝地域協働学校として】

- 生徒の育成は、学校が主体となり、保護者・地域がそれを支え・支援する場面が多い。
しかし、その場面・状況によっては、その主体を保護者及び地域に移管し、三者で総合的・統括的に生徒の育成を進めていく。



- 牛込第三中学校〔地域協働学校〕の教職員として、これまでの「保護者・地域と積み重ねてきた信頼」を全職員が十分に理解し、学校教育に生かしていく。
- 生徒の育成の方向として、「地域を支える中学生」を目指す。

5 令和2年度・学校経営計画 ―教育活動の重点―

(1) 「豊かな心」の育成

①生命尊重、人権尊重の教育の充実を図る。

②思いやりの心や社会性の育成を図る。

そのために、道德教育を教育活動全体で横断的に行なうとともに、特別の教科「道德」（道德の教科化）の指導内容を充実させ、「考え、議論する道德」の実現を図る。



【目標実現に向けた令和2年度の実践】

柱1 人権に関わる指導・対応 及び いじめ防止の指導の徹底

〔具体的な方策〕

- 道德の教科化を契機とした道德的实践力の向上
- 日常の人権を意識した教育活動の展開 及び 人権週間を一つの契機とした人権指導の充実
- 道德授業地区公開講座の充実（保護者・地域とともに生徒を育成する）
- いじめ・からかい等に対する「早期発見」と「丁寧な早期対応」
「牛込第三中学校いじめ防止基本計画」を要とし、スクールカウンセラー 及び 「学校サポートチーム」、外部関係機関との積極的な連携・活用を図る。
- 生活アンケート、hyper・QU の実施・分析＝いじめの早期発見およびいじめ防止の強化
- 個に対する対応の充実（個別相談・面談等の実施）
- いじめ発見・防止を含む、人権教育に係る教職員研修の実施

柱2 思いやりの心や感謝の気持ち、社会性を育成する指導の充実

[具体的な方策]

- 教育活動全体において、教育課題研究校としての取組と併せ、思いやりや自尊感情、自己有用感を高めることを意識した指導の工夫・充実
- 生徒会活動における自治的活動の促進〈生徒自身による学校改善のための自主的な取組の推進・実施〉(毎日のあいさつ運動、言葉遣い、身だしなみ、環境整備、保健衛生等)
- 生徒の自主性を育む生徒主体の学校行事・特別活動、体験(的な)学習の充実
- 奉仕(的な)活動の充実(あいさつ運動、地域貢献・地域連携 等)
- リーダーの育成(リーダーシップとメンバーシップ)
- オリンピック・パラリンピック教育との連携(6月能・狂言、3月オリンピアン講演会予定)

柱3 道徳教育の充実

[具体的な方策]

- 道徳教育推進教師を中心とした全体計画、年間指導計画、指導方法・内容・評価の工夫・改善・確立(生徒の成長を受け止め、励ます個人内)評価の充実
- 「教科書」の活用 及び 「私たちの道徳」「心みつめて」等の資料の積極的・計画的な活用
- 道徳授業地区公開講座の内容の充実(保護者、地域への発信)

柱4 「暴力根絶」「暴力行為ゼロ」の指導の徹底

[具体的な方策]

- 朝礼等における全校指導、学級活動、道徳の時間等における繰り返しの指導
- 校内研修、OJTによる指導力の向上
- 組織的な指導体制の確立
- 家庭・地域、関係諸機関(子供家庭支援センター、警察等)との連携強化
- 道徳教育との連携

(2)「確かな学力」の育成

育成すべき資質・能力を以下の3つの柱で整理し、各教科等そのものの文脈の中で身に付けていく力と教科横断的に身に付けていく力と相互に関連づけながら育成していく。

- 「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
- 「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
- 「どのように社会・世界とかわかり、より良い人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」



【目標実現に向けた令和2年度取組 — 教育課題研究校としての取組との連携 —】

柱1 生徒一人一人の学力の向上(基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成)

[具体的な方策]

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。
 - [朝] ○集中した朝読書の徹底(朝読書及び読書活動の推進)
 - [授業中] ○チャイム始業
 - 授業における指導の充実(繰り返し学習の徹底、個への指導の充実)
 - 授業の基本形(例:あきたのそちから)の習得と積極的な活用

○習熟度が十分でない生徒への対応（授業中の個への指導の充実、教材の工夫、複数教材の準備）

〔放課後〕 ○放課後学習教室（学生ボランティアによる家庭教師型補充学習）の実施

〔その他〕 ○国・都・区の学力調査の分析および活用

○ねらいを明確にした長期休業明けテストやコンテストの実施

○家庭学習の習慣化＝自学自習の意欲を促す課題、取り組める課題

○各種検定の推進

○少人数指導・習熟度別指導によるきめ細やかな指導の充実（数学・英語 等）

○年度末の学習到達度目標の明確化

柱2 「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善

〔具体的な方策〕

○思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

〔全教育活動〕 ○習得した基礎的な知識・技能を活用して、自ら考え、判断し、表現することを重視した授業展開の構築（生徒の思考力・判断力・表現力等を育成）

○年度末の学習到達度目標（生徒一人一人がどのような力を身に付け、どこまで引き上げるのか）の明確化

〔授業中〕 「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善

○発問の工夫による学習意欲の向上・思考の深化・積極的な表現の導き

○話し合い活動や他者と協働した学習等の工夫による学習の深化

○発表の仕方指導と聞き方指導の充実

○問題解決や意見を述べ合う活動、根拠を示しながらの説明、筋道を立てての説明等の意図的・計画的な設定

○学習者のICT機器の有効な活用

○各教員の授業観察（教育課題研究校としての取組を兼ねる）と事後指導を年3回以上実施

○相互の授業観察とアドバイス、ディスカッション

○手法として、ICT機器、ラベルワーク、パネルディスカッション等の活用

○授業中の個別指導、反復学習の充実

○学力調査の分析と活用

○学習評価の充実（診断的評価・形成的評価・総括的評価等）、パフォーマンス評価の導入

柱3 学習意欲の向上と学習習慣の確立

〔具体的な方策〕

○主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。

〔全教育活動〕 ○生徒の主体的・積極的な取組（見通しと興味・関心）

○生徒が自らの学習活動を振り返り、意味づけたり、獲得した知識・技能や育成された資質・能力を自覚したり、共有したりする

○実社会や実生活に関わる主題に関する学習の積極的な導入

○体験活動を充実させ、その成果の振り返りを次の学びにつなげる

○授業中等における、生徒一人ひとりのよさの積極的な評価

○自学自習の習慣づくりのための具体的な指導

○学力調査の分析と活用

○自学自習の意欲を促す課題、取り組める課題の提示

(3)「健やかな心身」の育成

- ①体力の向上を図る。
- ②心の充実を図る。
- ③心と体のバランスの取れた育成を図る。



【目標実現に向けた令和2年度の実践】

柱1 基礎体力の向上と部活動の充実〔バドミントン部・男子の増設〕（勝利至上主義ではない）

〔具体的な方策〕

- 保健体育の授業における補強運動の充実（ルーティン化）
- 体力調査の結果の活用
- 部活動における体力向上を意識した練習計画の作成と保健体育の指導との連携
- オリンピック・パラリンピック教育との連携・充実
- 健康教育・食育教育（家庭科、栄養士との連携）の充実

柱2 心と身体のバランスを重視した食育と健康教育の充実

〔具体的な方策〕

- 安全教育の推進
- 学校保健委員会の充実
- 健康教育・食育教育（家庭科、栄養士との連携）の充実
 - 朝礼や給食の時間における栄養士による食育の実施
 - 保健体育科や家庭科と栄養士の連携による食育の実施
 - 養護教諭や学校医による講話等の健康教育の実施

柱3 社会性の向上

〔具体的な方策〕

- 場に応じた行動の向上 ・挨拶の励行（生徒の活動とともに）
 - ・朝礼時の服装
- インクルーシブ教育の推進 ※特に、特別な支援を要する生徒や不登校生徒への対応
 - そのために、①状況の適切な把握と情報共有 → 個に応じた指導 …〔合理的配慮〕の徹底
 - ②SCとの連携 及び 関係諸機関との連携
- 生活指導部・学年等を中心とした社会性の向上を意識した組織的な対応
- 保護者との連携（不安等に寄り添う…教育相談的対応）
- 研修会等による教員の学び

(4) 保護者・地域と連携した教育の充実【地域協働学校】

地域の教育力の活用を図るとともに、地域を支える中学生を育成する。

－「地域は教材」「地域は教室」「地域は先生」「地域は家族」「地域は世界への入り口」－



【目標実現に向けた令和2年度の実践－教育課題研究校としての取組との連携－】

柱1 地域の教育力の活用

〔具体的な方策〕

- 地域行事への参画 －「牛込三中生の力」を地域で活用－
- 地域協働学校運営協議会の充実と隣接企業との連携

ゲストティーチャーとしての教育活動への招聘（朝礼講話、地域の方との懇談会 等）
進路指導における面接指導やマナー教室における支援

○ボランティア活動の充実

柱2 「開かれた学校づくり」から「開かれた教育課程」へ

〔具体的な方策〕

○情報の発信（学校だより、学校HPの充実）の拡大

○学校評価の充実と活用

○保護者・地域住民の教育活動への参画（参画できる場面の計画的な設定）

6 今年度の指導を進めるポイント

〔大前提〕 集団生活が前提である〔学校〕において、新型コロナウイルスへの対応（感染予防・拡散防止）が長期化する中、それを含めた『教育活動の柔軟な展開』が必要な年となる。
このことを大前提とした上で、

○副題を意識したグランドデザインの実現

－ 生徒主体の柔軟な教育活動の展開 「我慢の時」を『輝く未来』に －

○区教育課題研究校としての取組（校内研究・研修の充実）

→ この取組を通して、牛込三中を次のステージへ